

◎原発容認の過去反省 五輪関連行事を東北で ——田中秀征元首相特別補佐

東京都知事選(23日告示、2月9日投開票)に立候補する細川護熙元首相(76)に近い田中秀征元首相特別補佐(73)に、選挙戦で訴える政策などについて尋ねた。

——立候補の契機は。

「昨年10月21日に細川氏、小泉純一郎元首相と3人で会ったことがきっかけだ。2人は首相当時に原発を容認していたことに責任を感じていた」

「昨年末、中川秀直元自民党幹事長が『細川氏が立候補すれば小泉氏が全面的に応援すると言っている。出る気があるか』と尋ねてきた。細川氏に話し、そこから真剣に考え始めたと思う」

——「脱原発」か「即原発ゼロ」か。

「同じだ。再稼働しないということは『原発ゼロ』だ。細川氏は野田佳彦首相の在任中に脱原発を説得したが、野田氏は応じなかった。野田氏を弟子と思っていたから、非常に怒った。細川氏が勝てば原発再稼働も、解釈改憲による集団的自衛権行使もできなくなる」

「2020年を目標年にして脱原発を軸に東京、日本の経済や生活の形を変え、五輪時に(国際社会への)手本として示す。4年間で道筋をつくることができれば、五輪は若い人にやってもらうつもりもあるだろう」

——小泉氏は、なぜ細川氏を支援するのか。

「自民党に『脱原発政党』となってほしいのだろう。小泉氏は世論を信頼している。郵政民営化と比べて重大性は大きいですが、首相さえその気になれば、やりやすいと考えているのだろう」

——細川氏は佐川急便からの借金問題で退陣した。

「解決済みだ。1億円を借りて10年かけて返した。何の問題もないが、どう説明するかだ」

——東京五輪招致に否定的な発言をしていたが。

「うかつな発言だが、震災被災地の東北を考えてのことだ。今は明確に変わった。五輪関連イベントを東北で開ければいいと思っている」

——細川氏の立候補が政界再編の起爆剤になるとの見方も出ている。

「政界再編は、あくまで結果として起きるものだ。原発政策は当然、これからの政治を動かす軸となるだろう」

* * *

たなか・しゅうせい 40年、長野市生まれ。元衆院議員。細川内閣で首相特別補佐、橋本内閣で経企庁長官などを歴任。